

第一朗読：エゼキエルの預言(エゼキエル17・22-24)；わたしは高い木を低くする

答唱詩編：(詩編92・2+3+4、13+14+15)；たて琴をかなで、楽の音に合わせて、わたしは神をほめ歌う。

第二朗読：使徒パウロのコリントの教会への手紙(ニコリント5・6-10)；体を住みかとしていても、体を離れているにしても、ひらすら主に喜ばれる者でありたい

アレルヤ唱：(11B)；種は神のことば、まく人はキリスト、キリストを見いだす人は永遠に生きる。

福音朗読：マルコによる福音(マルコ4・26-34)；からし種はどんな種よりも小さいが、どんな野菜よりも大きくなる

今日の福音では、2つのたとえの中にそれぞれ「神の国」という言葉が出て来ています。マルコによる福音の初めにイエスが40日間の荒野での試練の後、ガリラヤへ行って宣教を始めます。その第一声は、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」という言葉でした。イエスの宣教の中心は「神の国」を告げ知らせ、どのように実現していくかを示すことでした。

では、「神の国」とは何なのでしょう。それをはっきり示してくれと人々はイエスに問いかけていたのでしょうか。イエスはまず、汚れた霊にとりつかれた男をいやしたり、重い皮膚病を患っている人をいやしたり、中風の人をいやしたりといった、いわゆる奇跡と呼ばれることを行っていました。すでにそれらが神の国が近づいたしるしであるのに、それでもまだ神の国を示してくれという人たちが大勢いたのでしょうか。身内の人たち、母や兄弟姉妹、親しい人たちもまだ分かっていなかったのか、「神の国」とはどういうものかをイエスはたとえで示そうとしたのかもしれない。

「神の国」は、イエスによってこの歴史の中に入ってきました。イエスの教えと救いの業によって始まっているのです。人々が悔い改めてこの救いの業を受け入れ、自分のものとしていくことが求められます。それはイエスに信頼して歩んでいくことによって始まります。しかし、まだ「神の国」は完成していません。「神の国」の完成は、歴史の終末において人の力によってではなく、神の力によって完成するものです。ミサの中や典礼の中で「神の国の完成を待ち望みながら・・・」という言葉を使うことがよくあります。「神の国」はイエスの到来によってすでに来ましたが、いまはまだ完成はしていないということです。

ところで福音の最初の段落のたとえはほかの福音書にはない箇所です。ありそうに思えますがマルコによる福音にしか書かれていません。ここを要約すると、「種を蒔いて世話をすると芽を出して成長して実を結ぶ」ということになります。その中で大事なキーワードとしては「その人は知らない」「土はひとりでに実を結ばせる」でしょう。「どうしてそうなるのか、その人は知らない。」どうして種を蒔いて時がたち芽を出して成長するのかを人は知らないのです。そういう現象が起こることをわたしたちも見て知ってはいます。ですが、なぜそうなるかはわたしたちも知りません。わたしたちも知っていると言いつつ現象だけを見て知っているということが、この世には多くあるのではないのでしょうか。

「土はひとりでに実を結ばせる」のも不思議なことです。「ひとりでに」というのは種を蒔いた人の力とは関係なく、何らかの力がそこに働かなければ起こらないことと言えます。種自身の力とも言えなくもありませんが、種は誰かに蒔かれなければ何も起こりません。そういう意味では種がひとりでに芽を出したのではないのです。もちろん、人は種がどんな条件で発芽しどのような気温で成長して行くかを記録して毎年の収穫に備えていくことができます。繰り返して行く中でもっともよい収穫を得ることができるよう努力していきます。毎年それによって命の糧を得ていきます。土の力は素晴らしいものです。その土を与えてくださったのは創造主である神です。わたしたちの間で始まった「神の国」も条件さえ整えば、人が気づかないうちに大きく実を結ぶのです。

イエスは人々のために十字架の死を受け、復活したのちに永遠の祭司、王であるキリストとして現れました。父から約束されていた聖霊を弟子たちに注ぎ、教会を始められました。教会はキリストと御父から受けた賜物に恵まれ、愛と謙虚と自己放棄のおきてを忠実に守るとともに、キリストと「神の国」というものを告げ知らせています。教会はすべての人々の内にみことばを告げ知らせ、世を変えていく使命を帯び、地上における「神の国」の芽生えとなっています。今日のたとえでわかる通り、教会は徐々に発展していきますが、それはわたしたちには見えない神の力が働いているからこそなのです。わたしたちには神の力は見えません。しかし、神の力の表れである教会の働きは目に見えるのです。つまり、教会の働きによって「神の国」の神秘がわかるのです。「神の国」はイエスによってはじめられました。わたしたちもそれを目に見える形で実現していくことができるよう願い求めましょう。